

科目名	地域経済産業論 Regional Innovation		選択	2単位
学期・曜日・時限	秋・木・5限		-	-
担当教員名	吉田 雅彦	e-mail		
講義形式	ハイフレックス（教員は原則学外から講義を実施するが、2回程度、講義室から実施する場合がある。）※対面履修生は全回講義室から参加			
<p><講義の概要と目的></p> <p>「地方創生」が日本経済の大きな課題の一つになっている。地域経済産業政策の歴史を振り返り、2000年以降、現在も続くシリコンバレー型、産業クラスター型の地域経済産業支援を学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <p>地域経済産業支援の理論と実際を学び、受講生が自らの考えをレポートにまとめ、プレゼンする。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>講義は「質問をお願いします」から始め、受講生の関心に沿って解説、ディスカッションしていく。</p> <p><ゲストスピーカー招聘></p> <p>受講生の関心によって検討する。講師は、経済産業省で産業クラスター政策責任者、岩手県工業課長、日立建機(株)経営企画室部長などを歴任している。</p>				
<p><講義計画></p> <p>講義計画は以下の通り。ただし講義の進行状況によっては、講義計画を若干変更する場合がある。</p> <p>1回目：イントロダクション（1,2回目のどちらかで講師の来学・対面を予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：自己紹介、講義の概要、『地域マネジメント』第1章 地域マネジメントとは <p>2回目：地域経済産業政策の発展過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：『地域マネジメント』第2章 地域マネジメントの実際 地域マネジメントの歴史的事例 <p>3回目：観光による地域経済産業政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：『地域マネジメント』第3章 観光地域マネジメントの実際 <p>4回目：地域経済産業政策の理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：『地域マネジメント』第5章 地域マネジメントの理論 <p>5回目：日本の産業クラスター政策の源流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：『中堅・中小企業』第2章 1986年～岩手県 1998年～TAMA協会 2003年～KNS <p>6回目：産業クラスターとして成功したシリコンバレーの歴史的な推移</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：『中堅・中小企業』第2章 時代背景 シリコンバレーからの学び <p>7回目：ハイテク産業クラスターであるシリコンバレーの成功要因を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：『中堅・中小企業』第2章 オープンイノベーションとネットワーク <p>8回目：シリコンバレーの地域経済産業政策の理論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：『中堅・中小企業』第2章 資源依存, 協同戦略, 取引コスト, 制度化 信頼 弱い紐帯 <p>9回目：ケーススタディ 産業クラスターがないケースとあるケース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：『中堅・中小企業』第2章 (修電舎, 昭和真空, 京浜工業所, エイワ) <p>10回目：受講生からの発表・ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：これまでの経験と授業を踏まえて、地域経済産業論に関する短い発表を行い、ディスカッションをする。（講師の来学時に実施するため、実施回は変更することがある。） 				

11 回目：地域経済産業政策の実際

・要点：『中堅・中小企業』第4章 オープンイノベーションを支援する支援組織等の役割

12 回目：地域経済産業政策の実際

・要点：『中堅・中小企業』第4章 イノベーション支援組織等が役割を果たす条件

13 回目：受講生のレポートとフィードバック (1)

・要点：受講生は発表を踏まえてレポートを作成する。レポートに関してディスカッションを行い、講師からフィードバックする。

14 回目：受講生のレポートとフィードバック (2)

・要点：受講生は発表を踏まえてレポートを作成する。レポートに関してディスカッションを行い、講師からフィードバックする。

15 回目：講義の総括

・要点：14回の講義のまとめ、受講生のレポートのブラッシュアップ、全体を通しての質疑応答

<講義の進め方>

毎回の講義の教科書の範囲を指定するので、事前にそれを読み、わからないこと、質問したいことをメモして用意していただきたい。講義は「質問をお願いします」から始め、受講生の関心に沿って解説、ディスカッションしていく。

<事前事後学習内容>

理解できない言葉、概念、理解できない内容などについて下調べは不要。わからないこと、質問したいことをメモして用意して毎回の講義に臨んで頂きたい。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習には毎回4時間程度の時間を当てていただき、10回目の短い発表、13, 14, 15回目のレポート（成績評価対象）を立案し、ブラッシュアップしていただきたい。

<教科書及び教材>

吉田雅彦（2022）『地域マネジメント - 地方創生の理論と実際-』鉾脈社

吉田雅彦（2019）『日本における中堅・中小企業のオープンイノベーションとその支援組織の考察』専修大学出版局

<参考書>

佐藤 利雄, 吉田 雅彦(2025)『起業・企業支援の実践 - これからの担う人たちへのエール』鉾脈社

<成績評価方法>

欠席6回以上の受講生の成績評価は行わない。評価は、①クラス貢献度（授業時の発言内容等）、②課題レポート、③プレゼンテーション、④ゲスト講師への質問や感想、の4点について評価する。

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法>

授業内、Teamsなどでフィードバックする。

<履修条件> 特になし**<ディプロマポリシーとの関連>**

アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当

<録画映像の視聴> 可**<オフィスアワー> メールでの問い合わせをお受けする。****<その他> 特になし。**